

ほっかいどう NIE 通信



Newspaper in Education

発行 北海道 NIE 推進協議会 〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX011-210-5826

北海道新聞ホームページ「NIE」(https://nie.hokkaido-np.co.jp/) でバックナンバーから閲覧できます

北海道推進協が25周年

全国大会2度 実践支援、普及に尽力

北海道NIE推進協議会が、1996年の設立から昨年で25周年を迎えた。四半世紀にわたり、実践を支援し、道内NIE活動の普及に尽力してきた。節目の年となった昨年は、新型コロナウイルスの渦中に札幌で開かれた第26回全国大会で主管を務めて運営を担った。今年は、25年の歩みを振り返る記念誌発行を予定している。

記念誌を発行へ

同協議会は1996年6月、道内に本社・支社を置く新聞8社と教育関係者が、教育での新聞活用を目的に設立した。これに先行して教育現場では、NIEに取り組み教員らによって90年7月に北海道十勝新聞教育研究会が、91年5月に北海道新聞教育研究会が発足し、道内NIE活動の草分けとなっていた。同協議会発行の「北海道NIE10年のあゆみ」によると、協議会の発足により、NIE関連の研究会の参加者が教員以外にも広がり、新聞各社もNIEを積極的に報道するようになったという。

その後、毎年の実践報告書発行、道内各地で地区セミナー開催、「ほっかいどうNIE通信」創刊と、活動の幅を広げてきた。道内の実践指定校数も、都道府県別で東京都に次ぐ2番目まで増えた。200

北海道NIE推進協議会25年の歩み

1994年10月	道内に本社・支社を置く新聞8社がNIE連絡会を結成
96年6月	北海道NIE推進協議会が発足
10月	第1回北海道NIE推進協議会研究大会が開かれる
98年8月	実践報告書(1996、97年度分)の発行が始まる
2001年12月	初の地区セミナー開催(第1回NIE旭川セミナー)
02年8月	第7回NIE全国大会を札幌で開催
12月	「ほっかいどうNIE通信」創刊
03年4月	新聞・通信5社が新たに加盟
15年11月	第1回NIE北海道セミナー
16年3月	第1回大学のNIEを考える会
16年5月	函館新聞社が加盟し、現在の13社に
21年8月	第26回NIE全国大会札幌大会をオンライン開催

2年と昨年、札幌で開かれた全国大会は、道内のNIEに大きな刺激となり、活動を広げるエポックメイキングとなった。加盟社の数も、発足時の新聞8社から、現在は通信社を含む13社に増えた。一方で新聞を取り巻く環境は大きく変わり、新聞購読者の減少、電子版などデ

パネル討論で歩み振り返る

3年ぶり 8月、北海道セミナー

北海道NIE推進協議会主催の北海道セミナーが8月10日、オンラインで開催される。昨年6月に迎えた推進協議会発足25周年を記念し、「北海道のNIE25年」をテーマに、アドバイザーらによるパネルディスカッションを行う。

パネル討論は、セミナーの本部を置く北海道新聞本社(札幌市中央区)で行い配信する。パネリストはア

ジタル素材にどう対応していくか、など課題を抱えている。同協議会の菊池安吉会長は「25年の節目を大切にしながら、全国に誇れる北海道のNIE活動をより一層発展させていきたい」と話している。

5月に定期総会

オンライン開催

北海道NIE推進協議会の2022年度総会が5月14日、北海道新聞本社(札幌市中央区)を拠点にオンラインで開催される。昨年8月に開かれた第26回NIE全国大会札幌大会の報告や、推進協議会の25周年記念誌の制作などが提案される。22年度道内の実践指定校の内定状況や新任アドバイザーも紹介する。

NIE札幌大会 大会報告を承認

実行委が書面決議

昨年8月にオンライン開催された第26回NIE全国大会札幌大会の実行委員会(菊池安吉委員長)は、第4回総会を書面決議で行い、決算案と大会報告がともに承認された。決算案と大会報告は11月15日、実行委メンバー全56人に送付。同30日までに過半数の38人から返信があり、全員が決算案と大会報告を承認した。

札幌大会は2002年以来19年ぶり2度目。公開授業や実践発表など全25プログラムを11月末までオンライン配信した。北海道大学などを会場に8月5、6両日を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大で延期となった東京五輪のマラソン・競歩と日程が重なり変更。感染収束も見通せず、開催約2カ月前にオンライン方式に変更した。開会式などの全体会は8月16日、札幌文化芸術劇場ヒタルからライブ中継された。オンデマンド配信のアクセス数は延べ1万1400件を超えた。

活動拡大へ提言

道内アドバイザー会議

日本新聞協会が認定する道内のNIEアドバイザーが1年間の活動を報告する2021年度の北海道NIEアドバイザー会議(北海道NIE推進協議会主催)が1月8日、北海道新聞本社(札幌市中央区)を拠点にオンラインで開かれた。

アドバイザーからは実践例のほか、活動の広がりに向けた提言も出された。アドバイザーのほか、長年アドバイザーを務め現在フェローとしてNIE活動の普及に当たる教諭ら計約15人が参加した。

提言は、教科の枠にとられない横断的な実践や学校としての取り組み、学校司書など他団体との連携などが挙げられた。学校現場への情報通信技術(ICT)の浸透を踏まえ、授業のダイジェスト版をオンデマンド配信するなどオンラインを活用して実践を共有する案も出された。

活動報告では、地区セミナーがオンライン開催となったことで、遠隔地のセミナーにも容易に参加でき、実践を幅広く知る機会になったことや新聞社の記事データベースを使った授業の紹介もあった。

2021年度の「大学のNIEを考える会」(座長・阪井宏北星学園大教授)が3月3日、オンラインで開かれた。教職課程のある道内6大学・短大の教員や学生ら約20人が参加。取り組

みの紹介やグループ討議から新聞を使った授業の意義や課題などを話し合った。北海道NIE推進協議会が開き6回目。北星学園大、北翔大短大部、旭川大、道大札幌校、札幌国際大、北海道文教大から参加した。

新型コロナウイルスで増えた遠隔授業での新聞記事の活用工夫や、記事を文章作成の指導に役立てていること

NIEとメディア・リテラシー教育

札幌市立もみじ台中学校校長 兼間昌智

真偽双方の情報があふれる現代社会。私たちはメディアやニュースにどう向き合えばいいのか。昨年、メディア・リテラシーに関する論文をまとめた日本NIE学会会員で、札幌市立もみじ台中学校校長の兼間昌智さんに寄稿してもらった。

のような中で、心無いメディアが飛び交い、フェイクニュースや、悪意による誹謗中傷も後を絶ちません。私は、これらの要因の一つに「メディア・リテラシーの欠如」が大きく関係していると考えてみました。メディア・

IE (Newspaper in Education 『教育に新聞を』) を積極的に活用することで、メディア・リテラシーの獲得や、物事を正確に判断し、根拠を基に自分の主張を述べる力が付いたかどうかを、客観的なデータを基に明らか

に注目し、各項目ごとでアンケートを実施し、メディア・リテラシー獲得に向上が見られたかどうかを検証しました。

調査対象は、札幌市内の三つの中学校の2年生で、NIE実践校のA中学校80名、NIE非実践校のB中学校78名、NIE非実践校C中学校の120名です。アンケートは、春(4月)、冬(3月)の2回行い、その記述内容をループリックの評価し、1回目と2回目の各項目の評価S、A、B、C、Dの割合が増加傾向にある

けで判断している生徒は減少傾向となりました。②A校は、多くの情報を自分で集め分析するなかで、その情報をクリティカルに捉え、思考することができると生徒が増え、情報の背後関係を理解できずに、自分のイメージで、そのまま信じて受け取っている生徒は減少しました。また、実際の生徒の回答の分析からも、その情報をクリティカルに捉え、思考することができると生徒が増えてきているのではないかと、言うこととです。

こうした結果から、NIEを積極的に活用し、メディア・リテラシー教育を進めることで、物事を正確に判断し、根拠を基に自分の主張を述べる力が、ある程度獲得できたのではないかと結論づけたいです。

正確な判断、根拠ある主張育む



にするということですが。メディア・リテラシーの特性を「メディアの特性を理解する能力」「メディアが構成する情報の背景を理解する能力」「情報をクリティカルに捉え、理解する能力」「メディアが自身に身近な存在として認知している能力」といった観点

か、減少傾向にあるのか、または、変化がないかなどをA校、B校、C校間で比較検討しました。

結果は、①A校はメディア本来の特性を理解し、それをある程度正確に判断し、自分の意見を持つようになり、メディアの特性を理解できず、自分の見方

に対してグローバルな視点で捉えようとしている生徒が増え、自分の身の回りのものだけを収集しようとする生徒が減少しました。

しかし、B校、C校においては、「メディアの特性を理解できず、自分の見方

インターネットの発達で、誰でも簡単に情報を受信できるようになり、SNSでは自分たちが興味ある情報にのみ関心を向け、それを無条件に信じようとする傾向が生まれていきます。「事実」よりも「信じるか、信じないか」が物事の判断基準になる「ポストトゥルース」(脱真実)時代に直面したと言えるのではないのでしょうか。また、こ

リテラシーが欠如しているため、SNSを中心とする情報のみを信じ、フェイクニュースに惑わされているのではないのでしょうか。私は、星槎大学院の修士論文として、次の研究を行ってみました。それは、N

中でも、「メディアの特性を理解する能力」「メディアが構成する情報の背景を理解する能力」「情報をクリティカルに捉え、理解する能力」「メディアが自身に身近な存在として認知している能力」といった観点

か、減少傾向にあるのか、または、変化がないかなどをA校、B校、C校間で比較検討しました。

結果は、①A校はメディア本来の特性を理解し、それをある程度正確に判断し、自分の意見を持つようになり、メディアの特性を理解できず、自分の見方

に対してグローバルな視点で捉えようとしている生徒が増え、自分の身の回りのものだけを収集しようとする生徒が減少しました。

しかし、B校、C校においては、「メディアの特性を理解できず、自分の見方

記事DB使い 学び深める

各地でNIEセミナー

2021年度のNIE地区セミナー(北海道NIE推進協議会主催)が上川、檜山、十勝の3地区でオンライン開催された。上川、檜山両地区では記事データベース(DB)を使った授業が公開され、情報通信技術(ICT)を活用した実践に関心が集まった。

キタシロサイの激減考える

上川地区

第20回上川地区セミナー(上川・旭川NIE研究会共催)は11月11日、北海道新聞旭川支社を拠点に開かれ、写真Ⅱ、旭川明成高が3年生生物の授業を事前収録した動画で公開した。「現代の生物を取りまく課題」をグループで考える授業。滝沢仁基、片岡昭彦両教諭が、北海道新聞社が教育用に開発した記事DB



「まなべー(べる)」を使って取り組んだ。あるグループは、検索した記事からアフリカのキタシロサイの生息数が激減した背景などを知り、現状と解決策を発表した。実践発表は、富良野市立扇山小の伊藤静香教諭が、昨年8月のNIE全国大会札幌大会で発表した実践を

「まなべー(べる)」を使って取り組んだ。あるグループは、検索した記事からアフリカのキタシロサイの生息数が激減した背景などを知り、現状と解決策を発表した。実践発表は、富良野市立扇山小の伊藤静香教諭が、昨年8月のNIE全国大会札幌大会で発表した実践を

はがき新聞 読み比べ紹介

十勝地区

第20回十勝地区セミナーが2月19日、オンラインで開催された。佐賀大教育学部の達富洋二教授(国語科教育)は教育実践講演で、「新聞を読むことで問題意識を持った人間を育てたい」と、複数紙の読み比べや、考えを簡潔にまとめる力を養うため「はがき新聞」の活用を紹介した。達富教授は「新聞を活用

した言語活動が創造する深い学び形式のコピーから意味の創造へ」のテーマで講演。九州の中学校で教壇に立っていたころ、伊方原発(愛媛県)の運転差し止めの記事を読んだ生徒が、なぜ九州の原発は運転差し止めにならないのかと疑問を持ち、複数の新聞を読んで考え、深い学びにつなげた事例を紹介した。

文字数が限られる「はがき新聞」の作成は、はやく、コンパクトに文章をまとめる力を付けるのに有効と述べた。講演に先立ち、地元音更町立緑南中の掛水成幸教諭が昨年夏のNIE全国大会札幌大会で紹介した実践を報告した。セミナーには札幌や十勝地区から約20人が参加。第32回北海道十勝新聞教育研究会を兼ね、北海道十勝新聞教育研究会(早川一之会长)と共催した。

【道教委教育賞】石井華梨(札幌市立もみじ台小3年)【札幌市教委教育賞】野澤靖雲(札幌創成高1年)【北海道NIE推進協議会会長賞】多門康太(北広島市立東部小4年)【北海道地区奨励賞】新保里来(乙部町立乙部中3年)、岩本桜弥(函館西高1年)、飯塚純大(札幌手稲高1年)

SDGsを複数の視点で

檜山地区



第8回檜山地区セミナーは12月11日、北海道新聞函

館支社を拠点に開かれた。持続可能な開発目標(SD

基に行った。前任の小規模校で全校児童と行った稲作活動についての新聞作りを通して、課題の発見やまとめる力を伸ばす指導過程を報告した。同小では校内研

修会として、教職員25人が視聴した。セミナーには上川管内の小中高校の教諭と教職課程の大学生を中心に約80人が参加した。

Gs)の達成に向けて考えた。LGBT(性的少数者)を取り上げたグループは、「目標実現には多くの人の協力が必要だと分かった」と発表した。また、今金小の加藤和也教諭は6年国語「自分の考えを発信しよう」、北海道江差高の榎本航平教諭は2年現代社会「エネルギーの開発と利用」について、それぞれ実践を発表。セミナーは道南の教員ら約30人が参加した。

さんら3人が選ばれた。小中高生と高専生が2020年9月から1年間の新聞から選んだ記事の感想をまとめた。47都道府県から6万4513編(前年比6536編増)、うち道内から1278編(同158編増)の応募があった。最優秀賞のほか、優秀賞30編、奨励賞120編、優秀学校賞15校、学校奨励賞197校を選んだ。北海道NIE推進協議会も北海道地区表彰で4賞6人を選定した。北海道地区表彰の受賞者は次の通り。(敬称略)

道内4人10校 全国奨励賞に

いっしょに読もう

日本新聞協会は、第12回「いっしょに読もう!新聞コンクール」の受賞者と奨励賞を発表した。道内からは奨励賞に外尾梓萌(ほかおこうめ)さん(夕張市立ゆうばり小3年)、外尾幸路(ほかおゆきじ)さん(同小5年)、宮下瑠奈さん(札幌手稲高1年)、宗像果音(むなかたかのん)さん(同)の4人、学校奨励賞には夕張市立ゆうばり小、別海町立中西別小、札幌市立もみじ台小、乙部町立乙部中、上富良野町立上富良野中、別海町立野付中、札幌手稲高、函館西高、富良野高、札幌創成高の10校が選出された。最優秀賞は東京都北区の小学5年、佐藤せり花

災害への備え



教員向け研修会での兵庫県教委の震災・学校支援チームによる講演(鳥取県倉吉市)



の思いを込めている。取材にこう打ち明けた。取材ある小学校の体育館で、女性の話に全校児童が耳を傾けた。体験談を聞いた女児は「もしも地震が起きたら、困っている人を助けたい」と力強く話した。経験者の

現場でも過去の記事に触れてもらい、災害を知り、学ぶきっかけになればと考えている。

災害時に避難拠点となる学校では、現場を預かる教職員の苦勞は相当だと聞いたことがある。こうした中、教職員を中心とした被災地支援の体制づくりが進んでおり、被災地の学校現場を支えるチームが全国で順次、誕生している。

先駆者は兵庫県。教職員らでつくる震災・学校支援チーム「EARTH(アース)」だ。「阪神大震災で応援をもらった恩返し」で設立。国内外の被災地で避難所運営や学校再開を支援する一方、他県に向いて震災の教訓を伝える。この動きは、被災地の熊本県や宮城県のほか、三重県にも波及。アースの初代メンバーは「蓄積したノウハウを(他県に)提供する。各地で組織ができれば、連携も取れる」と歓迎する。

北海道教育委員会もチーム設立に向け、教職員への研修が始まっていると聞いた。北海道に赴任し、マイカーで取材に出ると、一日数百キロ走る日も珍しくない。仕事の大半は運転という日もあり、「北海道はあまりにも広すぎる」と実感する。広大な土地ゆえ、道内各地域で支え合える組織ができることを願いつつ、報道機関として防災意識を高めるニュース配信に今後とも努めていきたい。

新聞も語り続ける

時事通信社札幌支社編集部長

上原 栄一

太平洋沖の日本海溝・千島海溝沿いでマグニチュード9クラスの地震が起きた場合、国内で最大約19万9000人の犠牲者が出る

。昨年12月、政府の中央防災会議がまとめた被害想定だ。北海道は最も深刻で、うち13万7000人に上る。早期避難などで被害を約8割減らすことができる

とはいうが、あまりにも衝撃的な数字で、大災害の恐ろしさを改めて突きつけられた。

。自身も小学生の時に被災。教員になり母校に赴任した際、先輩教員から背中を押され、震災体験を語り始めたという。被災地の惨状や避難所の様子など、まぶたに焼き付いている情景を絵に落とし込んだ紙芝居を作成。当時の様子を子供たちに語り継いでいる。

災害はいつ、どこで起こるか分からない。だからこそ、震災を風化させず「人ごとにしてほしくない」と語り、どこで起こるか分からない。だからこそ、震災を風化させず「人ごとにしてほしくない」と

。前任地は兵庫県。阪神大震災の被災地で、災害に関

編集後記

○…公開授業や実践発表をオンデマンド配信したNIE全国大会札幌大会後、当協議会が主催する地区セミナーを本格的に再開した。本年度は計6回。新型コロナウイルス感染症予防で、会場校に集まる従来スタイルはやめ、全国大会の経験を生かしオンラインで行った。

○…セミナーの本部は地域性を保つよう開催地域に設けた。授業は事前収録して公開。実践は担当教諭が各所から発表した。全国大会前、新型コロナ禍で中止せざるを得なかったセミナーは、情報通信技術(ICT)を活用することで、新型コロナを「克服」した。

○…セミナー開催で頭を悩ませる

のが「北海道の広さ」。これまで開催地以外からは、移動の負担もあり、なかなか参加できなかった。オンラインはこれを解決し、道内各地から教諭が授業や発表を見つめた。

○…変化は他にもあった。教員を目指す大学生の姿があった。同僚教諭の発表を「校内研修会」として視聴した学校もあった。オンラインは万能ではないが、セミナーに新たな風を吹き込んだようにも思う。

○…現地開催の臨場感とオンラインの利便性。双方を組み合わせれば、セミナーは一層の充実が期待できる。当協議会は昨年、25周年を迎えた。これからも時代に沿った北海道のNIEを考え、新たな試みにも取り組みたい。(坂)

宮崎で全国大会

8月4、5日

第27回NIE全国大会宮崎大会(日本新聞協会主催)が8月4、5の両日、宮崎市民文化ホールなどで開かれる。

大会スローガンは「いまを開き 未来を拓くNIE」。初日の全体会は開会式に続いて、2019年ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏(旭化成名誉フェロー)が記念講演する。「NIEで伸びる力、伸ばす力」子ども

もたちを持続可能な未来の創り手へ」をテーマにパネルディスカッションも行う。2日目の分科会は、宮崎公立大を会場に、公開授業と実践発表を行う。宮崎公立大と大会主管社の宮崎日日新聞社は、新聞を教材に時事問題に関する授業を受けた学生が何に気づき、気持ちや行動がどう変化したのかなどを共同発表する予定。

◇おこたわり「NIE実践奮闘記」は休みました。